

立命館慶祥中学校・高等学校 2023 年度学校目標年度末報告シート

教育目標

【目的】「世界に通用する 18 歳」の育成 ⇒ 3C を体現できる人材 <u>Challenge Contribution Collaboration</u>
中学 好奇心旺盛で自ら進んで学ぶ姿勢をもった生徒の育成
中学 流行やムードに流されない、確かな価値観や判断力を身につけ、行動できる生徒の育成
中学 他人の立場や意見を理解した上で、自分の意見を述べるができる生徒の育成
高校 「自己教育力」の育成 常に「なぜ」を問い、知的探求心を持って主体的に学習する
高校 「自己表現力」の育成 豊かな感性、確かな知識をベースに他者と議論し深く学ぶ
高校 「自己啓発力」の育成 常に前向きに考え、反省・改善・行動できる自立型の人間

中期目標（上位目標）

I. 授業力の向上、時代に即した授業スタイル、確かな評価・新たな評価法の研究
II. 師弟関係から伴走者へ生徒との向き合い方を変える、新たな生徒指導スタイルの研究
III. SSH 第 3 期申請の実行、SSH 指定を勝ち取る
IV. スタートアップ 3 ヶ年を経た、働き方改革の推進
V. R2030 将来構想の確かな前進、職場への進捗の共有、理解促進

I. 授業力の向上、時代に即した授業スタイル、確かな評価・新たな評価法の研究

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	授業評価アンケートで高い評価を得る	(1)	アンケートの高い回答率を達成する。（基準値は過去比較）	◎
		(2)	すべての教科会で年間テーマを設定し授業にあたる。	◎
		(3)	授業評価アンケートの結果をもとに改善を要する教員にすみやかに助言を行う。	◎
		(4)	公開授業週間を複数回実施する。	◎
2	時代の即した授業スタイルの模索	(1)	「学びの慶祥モデル 2023」を職場内で周知し理解を深める。	◎
		(2)	「学びの慶祥モデル 2023」を活用した授業実践を積み上げる。	○
		(3)	「協働的な学び数値ガイドライン」を職場内で周知し理解を深める。	◎
		(4)	「協働的な学び数値ガイドライン」を活用した授業実践を積み上げる。	△
3	確かな評価・評価方法の研究	(1)	成績評価に関する異議申し立て事案を問題化させない。	◎
		(2)	教科会における成績算出会議の徹底。	◎
		(3)	評価方法に関する研修機会の充実。（全体、各部署）	△
		(4)	SSHⅢ期申請計画に評価法研究を盛り込む。	◎

II. 師弟関係から伴走者へ生徒との向き合い方を変える、新たな生徒指導スタイルの研究

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	人権感覚、リーガルマインドをもった生徒指導方針の確立	(1)	D&I 全体研修の実施。（RU・河村先生）	◎
		(2)	司法面接の手法研究のための全体研修の実施（RU/理化学研究所・仲先生）	◎
		(3)	学校経営方針における問題と方向づけ。	◎
		(4)	本件に関するコア人材の育成。	×

2	生徒の自主活動を反映させた生徒指導内規等の見直し	(1)	同好会設立規定の改定。	◎
		(2)	同好会設立教員フローチャートの修正、周知徹底。	×
		(3)	数学五輪、各種コンテスト等、生徒自主活動の組織的受け皿の整理。	△
		(4)	部活動の改廃計画の策定。	○
3	自律型人材の育成に関する校内調査実施	(1)	校内調査の安定的実施。	△
		(2)	調査結果の解析、外部有識者を活用した検討会の実施。	◎
		(3)	調査結果の教職員への共有。	△
		(4)	調査結果の生徒・保護者への共有。	×

Ⅲ. SSH 第 3 期申請の実行、SSH 指定を勝ち取る

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	指定を勝ち取ることができるⅢ期申請準備	(1)	過去に失敗したⅢ期申請内容の精査と適格な修正。	◎
		(2)	基礎枠・重点枠ともに期日に余裕を持った申請作業の実施。	◎
		(3)	申請内容に関する面談練習の実施。	◎
		(4)	一貫教育部、外部有識者から助言をいただく検討機会の実施。	○
2	Ⅲ期申請を見据えた社会連携の構築	(1)	北海道大学・同大学院との連携強化。（慶祥生、北大生の往来）	◎
		(2)	北海道大学・同大学院との連携強化。（国家事業の共同実施）	◎
		(3)	道内の企業・研究機関との連携強化。	○
		(4)	道外の企業・研究機関との連携強化。	△
3	SSH 事業の浸透	(1)	国際共同研究、海外研修プログラムの継続実施。	◎
		(2)	探究研究部による、総合的な探究の時間・課題研究の時間の整理。	◎
		(3)	探究研究部による、中学総合学習の時間の整理。	△
		(4)	SSH に関する全体研修機会の設定。	×

Ⅳ. スタートアップ 3 ヶ年を経た働き方改革の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	働き方に関するさらなる意識改革	(1)	学校経営方針への明記。管理職による職場への呼びかけ。	◎
		(2)	労使懇談会の定期的な実施。	◎
		(3)	中間点検の実施と情報共有。年度末へ向けた改善点の明示。	◎
		(4)	意識改革をうながす研修機会の設定。	×
2	部活動政策、外部人材活用	(1)	リーフラスによる部活動運営の継続。	◎
		(2)	リーフラスとの連携における顕在化した課題の解決。	◎
		(3)	クラブ指導員の勤務状況の正確な把握。	○
		(4)	勤怠管理補助、進路指導、教務業務等に対する契約職員雇用。（教員から契約職員へ）	◎
3	全附属共通数値目標の達成	(1)	管理職による超過勤務管理の管理徹底。	○
		(2)	管理職による振休設定、取得状況の管理徹底。	△
		(3)	働き方推進休暇積極取得の呼びかけ。	◎
		(4)	働き方推進休暇取得奨励機会の設定。	△

V. R2030 将来構想の確かな前進、職場への進捗の共有、理解促進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	将来構想を見据えたカリキュラム、インフラ整備計画	(1)	SP 構想を見据えたカリキュラムの整備、外部連携	○
		(2)	GL 構想を見据えたカリキュラムの整備、外部連携	○
		(3)	将来構想を見据えたインフラ整備計画の策定	△
		(4)	GL 構想に関連するオンキャンパス寮の設置是非の議論。	×
2	SP、GL の基盤となる成果の獲得	(1)	東京医 50（現役 30）の達成。	◎
		(2)	海外大学進学者への支援。	◎
		(3)	海外研修プログラムの充実。	◎
		(4)	中高受験倍率、生徒募集状況の安定。	◎
3	小中接続の推進	(1)	小中連携部（限時的措置）の設置。	◎
		(2)	国算英 PT の設置・答申作成。	◎
		(3)	田中学園小学校保護者、児童に対する来校機会、説明機会の複数回実施。	◎
		(4)	24 年度の接続準備計画の年度内策定。	◎

達成状況

・授業改善の必要性を前面に押し出した１年であったが、このことに関して具体的な施策を示し、実行することができた。24 年度はこれらの取り組みについて、生徒・保護者に共有しより磨きをかけていきたい。生徒指導のあり方について、研修機会を通じて「警察官からカウンセラーへ」「人権感覚とリーガルマインドをもった生徒指導へ」を訴えている。今後も継続していきたい。働き方改革に関して、これまで外部人材の活用と業務委託を積極的に推進してきた。自走化にむけた財政政策を策定すると共に、これまでの到達点と課題を学園内で共有していきたい。

改善策

・同好会設立に関する教員フローチャートの作成、SSH に関する全体研修、働き方改革に関する意思統一の場面設定など、「×」としたものについては、次年度 4 月に実施していきたい。GL 構想については、24 年度の前半期に一貫教育部・APU と連携しながら具体化委員会を組織し前進させていく。SP 構想については、北海道大学との連携を確かなものにし、協定締結を実現する 24 年度としたい。SSH は、指定をうけたⅢ期申請内容を具体化するべく 24 年度内に高度な社会連携をはかっていく。働き方改革は、成果を教育の前進につなげる意識改革をうながしていきたい。
--

学校関係者評価に関する事項

委員会 構成	委員長 青坂進一（保護者会会長） 委員 林大輔（江別市教育委員会委員長職務代理）、和田範能（株式会社北日本広告社常務取締役） 小笠原正浩（教育振興会会長）、大越高（慶祥会会長）、久野信之常務、横澤広久部長、菊地賢司校長
開催日程 主な議題	第 1 回 2023 年 6 月 30 日（金）12:30-14:00 @慶祥ミーティングルーム 1 第 2 回 2024 年 1 月 19 日（金）13:30-15:00 @慶祥ミーティングルーム 1
評価・改善 事項	・第 1 回目では SSH の申請、部活動の遠征、クラブ OBOG 会の設立、生成系 AI への対応、熱中症対応、学校への冷房の設置等について助言をいただいた。改善指摘事項はなし。 ・第 2 回目では第 1 回目の指摘事項を振り返りつつ、23 年度の総括と 24 年度の方針を共有しご助言をいただいた。次年度の 1 回目のテーマとして、いじめの重大事態に対する対応方針を確認し意見交換することが決まった。